

School Sex Education in Korea : Present Status and Problems

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-03-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 仲川, 裕里 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00001124

韓国における学校性教育の現状と課題¹⁾

仲川 裕里
専修大学経済学部

School Sex Education in Korea: Present Status and Problems

Yuri Nakagawa
School of Economics, Senshu University

本稿では韓国における学校性教育の現状と課題を検討する。儒教の影響が強い韓国では、伝統的に性に関することについては閉鎖性を維持する傾向があったが、急速な産業化、性に対して開放的な欧米の文化の影響、早期化する身体の成熟に比べて未熟な青少年の性的知識、といった要素が相俟って、青少年の性に関する問題が増加するようになった。そのため1970年代ごろから学校性教育の必要が積極的に議論されるようになり、1982年には初めて公式に学校で性教育を実施するという発表が出された。以後、韓国政府は教師用指導資料・指針書の作成・配布、性教育基本方針の明示、性教育実施時間の指定などを通して学校性教育の体系化・活性化を行なってきた。しかし、政府主導の下で現在実施されている韓国の学校性教育には、評価すべき点も多いが、問題点も多く残されている。本稿では韓国の学校性教育の現状を制度面と実施状況にわけて紹介し、その問題点を分析する。

* キーワード：韓国, 性教育, 学校, 儒教

This paper examines the present status and problems of sex education in schools in Korea. In Korea, with the strong influence of Confucian tradition, issues related to sex tended to be avoided in public discourse. However, rapid industrialization, the inflow of sexually liberated Western culture, and the increase in early physical maturity of youth who had little or no knowledge related to sex, all together brought a rash of sex problems among young people. This resulted in an active debate in the 1970s over the need for sex education in schools, and in 1982 the Ministry of Education, for the first time, officially declared that sex education would be provided in schools. Since then, the Korean government has promoted sex education in schools by compiling and distributing guidebooks for teachers, clarifying the basic policy for school sex education, and designating how many hours a year should be devoted to sex education. Though school sex education in Korea has made a great leap forward in recent years, there are still many problems. This paper illustrates the present status of school sex education in Korea from an institutional and operational perspective and discusses its problems.

* key words: Korea, sex education, school, Confucianism

I はじめに

日本では「性教育」ということばは、そのまま学校性教育を意味するものとして受けとめられることが多いが、韓国の場合、性教育というものはもっと広くとらえられている。学校で行なわれる性教育はもちろん、職場で成人を対象に行われる性戯弄（セクシャル・ハラスメント）についての講習なども性教育としてとらえられているため、「性教育について教えてほしい」というと必ずといってよいほど「成人を対象とする性教育か？学校性教育か？」と問い返される。

日本と韓国の学校性教育を比較すると、韓国の学校性教育は両性平等教育としての側面が強く、男女の身体差や性衝動・性行為・生殖といった性知識に関する教育だけでなく、性暴力予防・性戯弄予防・性売買予防教育が非常に重視されている。このように、学校性教育を単に性についての知識に限定するのではなく、両性が互いについての理解を深め、互いに尊敬しあって生きていくことを学ぶ両性平等教育の一環として行うということは、学校性教育のありかたとして望ましいことであるが、その一方、学歴が極めて重視される社会状況を背景に過酷な受験競争が学生に強いられている韓国の教育の現場において、正規科目ではない性教育を限られた時間のなかで教える際に、広範囲にわたる内容をどのように教えていくかという難題に直面せざるを得ない。

儒教文化の影響が強い韓国では、伝統的に性に関することを表に出すことは避ける傾向が強く、学校における性教育は「眠っている子どもをわざわざ起こすようなもの」とされ、積極的に推進されない時期が長く続いたが、現在の韓国では学校性教育は必要なものと社会的に認知されており、教育制度上でも初²⁾・中・高等学校において性教育を行うことが義務づけられ、政府主導で学校性教育の体系化・活性化が推進されている。

しかし、現在実施されている韓国の学校性教育には一定の評価が与えられている一方で、性教育の内容や教材、担当者といった具体的な施策についてはまだ問題が多く残っていると考えられている。本稿では韓国における教育の現状を制度面と実施状況に分けて紹介し、その問題点を分析する。

分析に用いたデータは、2回にわたる現地調査（2004年12月26日～2005年1月8日、2005年9月7日～9月10日）で収集した情報、韓国の中央政府機関・地方自治体・民間団体・学校等がインターネットのホームページで公開している情報、新聞記事に基づき作成したものである。韓国での現地調査では、中央政府機関（教育人的資源部³⁾・女性部⁴⁾・保健福祉部⁵⁾、政府系研究機関（韓国女性開発院⁶⁾、民間団体（大韓家族保健福祉協会⁷⁾・アハ青少年性文化センター⁸⁾）、地方教育行政機関（慶尚南道教育庁・晋州市教育庁・山淸郡教育庁）を訪問し、性教育に携わる方々への聞き取り調査並びに資料収集を行なった。

II 韓国における学校性教育制度

前述のように、学校で性教育を行うことについては、韓国でも日本と同様に、あるいは日本以上に、社会的抵抗感が強かった。しかし、1970年代に入ると、韓国社会の急速な産業化とともに、性に対して解放的な欧米文化が広まり始め、若者や子どもたちが性に関する情報に接する機会が急増するようになってきた。さらに、青少年の性的成熟が早まり、性に対する悩みや問題が増加してきた。こうした社会状況を背景に、学校性教育の必要が積極的に議論されるようになり、学校で性に対する正しい態度を育成するための指導が必要であるという考え方が支持されるようになった。教育人的資源部（当時の名称は文教部）も能動的な性教育を行う方向にシフトし、1982年12月、それまで用いられていた「純潔教育」という用語に代わるものとして「性教育」という用語を初めて公式に使用し、学校で性教育を実施するという公式発表を行った。その後、教育人的資源部（当時の名称は文教部）は教師用の性教育指導資料を作成・配布するなど学校における性教育の推進に努めたが、この資料は性教育全般にわたる指導資料としては不十分な点が多く、また統一された性教育指導理念も立てられていなかったため、性教育の効果はあがらなかった。その後、性教育指導に当てられる教科・時間枠を広げたり、性教育指導資料を新たに発刊したりするなど持続的な努力は続けられてきたが、制度的に大きな進展が見られたのは、2000年に改訂された第7次教育課程からである。

教育人的資源部（当時の名称は教育部）はこの2000年を「性教育元年の年」と定め、積極的な学校性教育推進に乗り出した。韓国における学校性教育の究極的な目標は、性に対する科学的知識を通して男女の身体心理的特性と社会的役割と理解し、性に対して正しい価値観を確立して責任ある性行動をとれるように、肯定的な自我概念を形成し円満な社会生活を営めるようにすることであるとし、この究極的目標を達成するための具体的な目標を領域別に設定して幼稚園から高校までの5段階に分けた教師用性教育指導指針書『いっしょに解いていく性のはなし』（教育人的資源部 2001a）を作成した。この指針書は性教育の指針を示すだけでなく、教科書並びに性教育指導資料としての機能も備えたもので、同時に作成された『性戯弄・性暴力予防教育プログラム』（教育人的資源部 2001b）とともに2001年の3月に配布された⁹⁾。教育人的資源部は同時に「学校性教育活性化指針」を発表し、初・中・高等学校の各学年において年間10時間の性教育を行うこと、各学校で1名性教育担当教師を指定することを示達した。

この決定に基づき、全国の初・中・高等学校には、学年度が始まる前に立てた性教育の年間計画を学校教育計画書に入れること、各学校で1名指定することになっている性教育担当教師には性教育計画の立案・実施等、性教育全般に係わる業務を担当させ、それを業務分掌表に必ず明示することが求められている。また、性教育の研究・モデル推進学校を指定することによって教育現場における性教育の活性化が進められている。

この他、教育人的資源部では、教材活用方法や性教育教授方法についての研修やセミナーの実施、性教育教師用のホームページの運営を通して、性教育担当教師の専門性の向上に努めている。また、市や道の教育庁も教育人的資源部の要請を受けて、性教育担当教師を対象とする研修、性教育指導案開発、性教育研究・モデル推進校の指定などを行っている。

1 国の定める学校性教育の概要

2001年に発刊された教師用性教育指導指針書『いっしょに解いていく性のはなし』では、学校性教育の究極的目標を達成するための具体的な目標を「身体心理発達領域」「人間関係理解領域」「性文化及び性倫理領域」の領域に分けて設定している。「身体心理発達領域」では身体的・心理的発達の理解を通して自分の身体変化とそれに伴う心理変化を正しく受容し管理することができるようにすること、「人間関係理解領域」では人間関係に対する全般的な理解を通して生命の尊厳性と責任意識を身につけ、家族関係ならびに同性／異性の友人関係を形成しながら正しい意思表示と意思決定ができる能力を養うようにすること、「性文化及び性倫理領域」では両性平等的な性役割の理解を通して望ましい性の実体性と性文化及び性倫理意識を形成し、性問題を予防し対処することができる能力を身につけることを目標としている。

『いっしょに解いていく性のはなし』は幼稚園用（3～6歳）・初等学校低学年用（1～3学年）・初等学校高学年用（4～6学年）・中等学校用・高等学校用の5段階に分冊されていて、各段階において「身体心理発達領域」「人間関係理解領域」「性文化及び性倫理領域」内にそれぞれ下位領域を設定し、主題と内容を規定している。韓国の性教育は、単なる性知識の教授に留まるものではなく、両性平等教育、性戯弄予防教育、性暴力予防教育、性売買防止教育といった領域を包摂しており、それが『いっしょに解いていく性のはなし』で示される学習内容にも反映されている。

(1) 初等学校における性教育プログラム

初等学校における性教育プログラムでは「身体心理発達領域」は身体発達・性心理の発達・性健康の3つの下位領域に分けられている（表1）。

「身体心理発達領域」には、生命の誕生から出生以後の成長発達過程における身体の変化、初等学校高学年期の心理的特徴の理解と心理的变化に対する正しい対処方法が含まれている。また、身体の変化と関連する自分の性の健康維持、異性の性的特徴についての理解と保護、さらに AIDS に関連する性健康について教えることになっている。

家族関係・異性関係に焦点を合わせた「人間関係理解領域」には、家族内での円満な人間関係と健全な異性関係及び愛、結婚についての内容が盛り込まれている。人間関係において発生するおそれのある性に関連した問題事項を認識し、能動的な問題解決のた

表1 初等学校性教育プログラムの領域別内容

領域	下位領域	主 題	内 容	
身体心理発達領域	身体発達	生命の創造	<ul style="list-style-type: none"> • 卵子と精子の生成と受精過程 • 受精から着床までの過程 	
		胎児と母体	<ul style="list-style-type: none"> • 子宮内の胎児の成長と胎児の出産過程 • 受精から出産までの成長過程 	
		遺伝と性染色体	<ul style="list-style-type: none"> • 遺伝の原理 • 性（男性・女性）が決定される過程 	
		身体発達の差異	<ul style="list-style-type: none"> • からだの変化と認識 • 男女間、個人間の身体発達の差異 	
		第二次性徴	<ul style="list-style-type: none"> • 男・女の二次性徴 • 男・女の生殖器の構造と機能 	
	性健康	生殖器保護	<ul style="list-style-type: none"> • 生殖器保護と清潔の重要性 • 生殖器保護と清潔の維持方法 	
		夢精	<ul style="list-style-type: none"> • 夢精現象及び対処方法 • 夢精現象に対する正しい態度 	
		月経	<ul style="list-style-type: none"> • 月経現象及び対処方法 • 月経現象に対する正しい態度 	
		異性の生理的变化	<ul style="list-style-type: none"> • 異性の生理的变化 • 異性の生理的变化に対する正しい態度 	
		エイズ	<ul style="list-style-type: none"> • エイズと症状 • エイズの予防法 	
	性心理発達	思春期心理	<ul style="list-style-type: none"> • 思春期の心理的特性 • 心理的变化に対する対処方法 	
	人間関係理解領域	結婚と家庭	結婚	<ul style="list-style-type: none"> • 配偶者選択の基準 • 結婚における性
			夫婦	<ul style="list-style-type: none"> • 夫婦の役割 • 夫婦の責任と義務
			家族	<ul style="list-style-type: none"> • 家庭の意味と大切さ • 家族構成員の役割 • 家族間で守らなくてはならない礼節
		異性と結婚	友情	<ul style="list-style-type: none"> • 友人間の信義と友情 • 円満な交友関係のための努力
異性の友人			<ul style="list-style-type: none"> • 異性の友人に対する関心と表現 • 異性の友人間で守らなくてはならない礼節 	
自己決定と選択		正しい意思決定	<ul style="list-style-type: none"> • 意思決定の段階 • 正しい意思決定過程表現 	
		効果的な自己主張	<ul style="list-style-type: none"> • 状況に対する反応と表現 • 自己主張の表現の練習 	
		拒否する技術	<ul style="list-style-type: none"> • 危険あるいは不当な圧力を与える状況とそれに対する行動 「いやだ」と拒否する練習 	
性文化及び性倫理領域		社会的環境	性暴力	<ul style="list-style-type: none"> • 性暴力の概念と類型 • 性暴力の事後措置 • 性暴力予防の心得 • 性暴力状況における対処方案
			マスメディア	<ul style="list-style-type: none"> • 正しくない性文化に対処する方法
	淫乱物		<ul style="list-style-type: none"> • 淫乱物の事例 • 淫乱物に対処する方法 	
	両性平等	性の差異	<ul style="list-style-type: none"> • 男女間の性の差異 • 個性的な存在としての人間 	
		性の固定観念	<ul style="list-style-type: none"> • 性差別の意味と理解 • 性差別と性の差異の区分 • 性の固定観念に対する批判的な態度の形成 	
		両性平等	<ul style="list-style-type: none"> • 家庭、社会、学校での性差別意識解消 • 両性平等意識の確立 	

めの自己決定と選択について学習することになっている。

「性文化及び性倫理領域」では、効果的な学校性教育は生物学を超え、性についての感情的、文化的、倫理的側面を含むものでなくてはならないという認識から、責任ある性行動についての規範を提示してあり、性に関連した社会的環境の問題点に対する批判的思考と対処について学ぶことになっている。さらに、男女両性で構成されている人間社会において、男女の特性と役割について正しい理解と互いを尊重する意識を養うため、両性平等に関する事項について教えるよう定められている。

(2) 中学校における性教育プログラム

中学校は思春期に入る時期であることから、性教育プログラムは、この時期に生じる急激な身体的・心理的变化を正しく理解し、管理できるようにするために設計されている。上述の3領域のすべてにおいて初等学校と比べて多くの下位領域・主題・内容が設定されている(表2)。

「身体心理発達領域」は、下位領域の区分にはなっていないが、初等学校のプログラムと同様に、身体の発達・性心理的発達・性健康の3領域で構成されている。身体の発達として、男女の生殖器官の構造と機能、生殖器の衛生、男女ホルモンの役割と第二次性徴の発現、妊娠の過程と症状、胎児の成長過程について理解させ、人工妊娠中絶についても説明する。心理的発達としては、思春期の心理的特性、性の実体感の発達、異性への関心、性衝動とその調節について学ぶ。性健康では、性病、エイズ、異常性行動に関する内容を扱っている。

「人間関係理解領域」では、青少年が異性交際や異性交際を通じた性行動、さらには結婚を決定するにあたって後悔することのない選択をする助けになるような事柄を中心に、家族関係、友人・異性関係等に対して正確で正しい理解ができ、自分の意思を表現するだけでなく、合理的な意思決定能力を養うことができるような内容を設定している。特にこの時期は実際に異性交際を始める学生もいるため、望ましい異性交際と異性間の礼節に関連する内容が含まれている。

「性文化及び性倫理領域」は効果的な学校性教育に必ず含まれていなくてはならない性態度、価値観に関連する領域である。この領域では両性平等に立脚して望ましい性役割を理解し、責任ある性行動をとるのに必要なことを学習する。「性文化及び性倫理領域」は「社会的環境」と「両性平等」の下位領域に分かれていて、前者では性暴力の意味、性暴力の類型や発生原因及び予防策、性とマスメディア、性の商品化と青少年の売買春の問題について学習する。後者では性差別と性役割の固定観念、男女の協力と調和を基礎とする両性平等の意味について学ぶ。

表2 中学校性教育プログラムの領域別内容

領域	下位領域	主 題	内 容
身 体 心 理 発 達 領 域	身体構造と変化	男女の身体構造と変化	<ul style="list-style-type: none"> • 男性の生殖器の構造と機能 • 女性の生殖器の構造と機能
		男女の身体構造と生殖器の衛生	<ul style="list-style-type: none"> • 生殖器官の分解と組み合わせ • 男性の性器衛生 • 女性の性器衛生 • 包茎
		男女のホルモンの役割と二次性徴の発現	<ul style="list-style-type: none"> • 男性ホルモンの役割 • 女性ホルモンの役割 • 勃起現象 • 一次性徴と二次性徴の意味 • 射精, 夢精, 遺精 • 発達の個人差 • 月経の意味 • 乳房の発達 • 体毛の発達
	妊娠と出産	赤ちゃんはどのように生まれるのか？	<ul style="list-style-type: none"> • 精子と卵子の生成と成熟 • 受精と妊娠の成立過程 • 性の決定過程 • 妊娠の身体的, 心理的徴候 • 胎児の月齢別成長過程
		健康な妊娠と出産	<ul style="list-style-type: none"> • 胎内環境と胎教 • 奇形児予防のための産前管理 • 遺伝の原理 • 出産 • 避妊とは？
		人工妊娠中絶(墮胎)	<ul style="list-style-type: none"> • 人工妊娠中絶(墮胎) • 人口妊娠中絶の意味 • 人工妊娠中絶の合併症
	性心理の発達段階的特性	性的実体感	<ul style="list-style-type: none"> • 思春期の心理的特性 • 性的実体感の発達
	青少年期の悩みと葛藤	異性への関心	<ul style="list-style-type: none"> • 異性に対する関心の発達 • 性心理の男女差 • 性心理の個人差
		性衝動の調節	<ul style="list-style-type: none"> • 思春期の性衝動に対する理解 • 性衝動の発生時の対処方法 • 性衝動の事例
	性病及びエイズ	性病	<ul style="list-style-type: none"> • 性病の種類, 症状, 原因, 予防法, 対処方法
		エイズ	<ul style="list-style-type: none"> • エイズの感染経路, 症状, 治療と予防法 • エイズについてのまちがった認識
	異常性行動	まちがった性行動	<ul style="list-style-type: none"> • まちがった性行動とは？ • まちがった性行動の類型と意味 • まちがった性行動の予防と対処方法

表2 続き

領域	下位領域	主 題	内 容
人間関係理解領域	結婚と家庭	結婚はなぜするのか？	<ul style="list-style-type: none"> 結婚の意味 配偶者の選択時に考慮する点 幸福な結婚生活
		家族構成員の役割と責任	<ul style="list-style-type: none"> 家族構成員の役割と責任 家族間に葛藤が発生した時望ましい解決方法
	友情と愛	友情と愛	<ul style="list-style-type: none"> 真実の友情とは？ 男女間の友情と愛、真実の愛の意味
	異性交際	異性交際	<ul style="list-style-type: none"> 異性交際 異性との葛藤時望ましい葛藤解決方法
		異性間の礼節	<ul style="list-style-type: none"> 対話の礼節 デートをする時の礼節
	性的自己決定権	性的行動の自己決定の重要性とその責任	<ul style="list-style-type: none"> 愛と性の関係 性的行動の自己決定の重要性 衝動的性行動の結果と責任
		効果的に対話をする方法	<ul style="list-style-type: none"> 対話を妨害したり歪曲させる要素 効果的に対話する方法
自己主張	自己の意思を表現すること	<ul style="list-style-type: none"> 自己の意思表現の必要性和自己の意思を表現しない時、出てくるおそれのある問題 自己主張的行動の意味 自己主張的に意思を表現する方法と注意点 望ましい要請方法と拒絶方法 	
性文化及び性倫理領域	社会的環境	性暴力	<ul style="list-style-type: none"> 性暴力の概念と類型 性暴力に対するまちがった認識の点検 性暴力の発生原因 性暴力の危機対応策 性暴力の予防策 性暴力の後遺症 性暴力の事後処置 助けを受けることができる所
		マスメディアの中の性情報を正しく知る	<ul style="list-style-type: none"> ドラマ／漫画／広告／ロマンス小説分析を通じたマスメディアの中の性イメージの批判 健康な性に対する判断力の涵養
		ポルノの影響	<ul style="list-style-type: none"> ポルノとは 性暴力状況の合理化 女性に対するまちがった認識 性に対するまちがった態度の形成 性的衝動を誘発する
		性の商品化	<ul style="list-style-type: none"> 援助交際の事例 十代の売買春問題 十代の売買春禁止に対する法的根拠
	両性平等	社会での性役割	<ul style="list-style-type: none"> 性的体験と社会での性役割 性役割の固定観念
		性役割の固定観念と性差別	<ul style="list-style-type: none"> 性役割の固定観念とは？ 性差と性差別
		男女の協力と調和	<ul style="list-style-type: none"> 性役割の固定観念の批判 両性性とは？ 成熟した性役割のための準備 両性平等文化を目指す個人と社会の努力

(3) 高等学校における性教育プログラム

高等学校では、特に「身体心理発達領域」と「性文化及び性倫理領域」において、さらに多くの主題と内容が盛り込まれている（表3）。

表3 高等学校性教育プログラムの領域別内容

領域	下位領域	主 題	内 容
身 体 心 理 発 達 領 域	身体の構造と変化	思春期の身体及び性的発達	<ul style="list-style-type: none"> ・思春期の身体及び性的発達 ・性的発達と性ホルモン ・性的発達の順序 ・身体変化の心理的效果と個人差
		人間の身体構造と生殖	<ul style="list-style-type: none"> ・男性生殖器の構造と機能、生理現象 ・女性生殖器の構造と機能、生理現象 ・初潮と夢精に対する心理的反応と個人差
		思春期の性的発達と衛生	<ul style="list-style-type: none"> ・男性生殖器の衛生と方法 ・女性生殖器の衛生と方法
	性心理の発達段階的特性	異性愛発達	・Hurlock の異性愛発達過程
		対人関係欲求発達	・Sullivan の対人関係欲求発達過程
	青少年期の悩みと葛藤	性欲求と性反応	<ul style="list-style-type: none"> ・性欲求の理解 ・性欲求の調節中枢 ・性欲求の男女差異 ・性反応の周期（性反応の男女差異）
		性衝動と自慰行為	<ul style="list-style-type: none"> ・性衝動と自慰行為 ・性衝動の解消方法
	妊娠と避妊	妊娠と出産	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠の成立 ・妊娠の症状：身体的、心理的变化 ・胎児の成長と発育 ・出産：出産の準備、過程及び産後の管理
		避妊	<ul style="list-style-type: none"> ・避妊の必要性和目的 ・避妊の種類、原理、長短所 ・避妊の方法 ・避妊をしない、あるいは失敗する原因 ・避妊方法の選択と責任
		人工妊娠中絶	<ul style="list-style-type: none"> ・人工妊娠中絶とは？ ・人工妊娠中絶の方法 ・人工妊娠中絶の危険と留意事項 ・十代の人工妊娠中絶がもつ問題点と危険性 ・人工妊娠中絶で起こる問題と対策 ・人工妊娠中絶に対する賛否の論争
	性関連疾病	性病の種類と症状と予防	<ul style="list-style-type: none"> ・性病とは？ ・性病の種類と症状 ・性病の原因と予防
		エイズの原因と症状、予防	<ul style="list-style-type: none"> ・エイズの原因 ・エイズの感染経路 ・エイズの進行過程と症状 ・エイズについての虚と実 ・エイズの予防
	異常性行動	異常性行動の類型別特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・異常性行動とは？ ・異常性行動の類型別特徴
		異常性行動の予防	・異常性行動の原因と予防

表3 つづき

領域	下位領域	主 題	内 容
人間関係理解領域	異性と愛	青少年の異性交際	<ul style="list-style-type: none"> 異性交際経験の現況 異性関係の発展要因及び阻害要因 異性交際の機能
		愛の要素, 類型及び愛の経験	<ul style="list-style-type: none"> 愛の要素 愛の4段階 愛の類型 愛の感情, 愛の行動 愛に対する態度
	性的自己決定と選択	愛と性的行動	<ul style="list-style-type: none"> 性と愛の関係 婚前純潔に対する態度 性態度における男女の差異
		性行動と性的意思決定	<ul style="list-style-type: none"> 青少年性行動の特性 青少年の性行動の現況 青少年の婚前妊娠
	結婚と家庭	結婚の意味	<ul style="list-style-type: none"> 結婚の意味 多様な結婚制度 結婚の法的条件 結婚について考えてみる事項
		家庭と子女養育	<ul style="list-style-type: none"> 家庭形態の変遷 家族生活の周期 子女養育の重要性 母性本能：本能 vs 社会化の産物
性文化及び性倫理領域	社会的環境	性暴力の概念及び正しい認識	<ul style="list-style-type: none"> 性暴力とは？ 性暴力の類型：行為による分類 強姦 性暴力の類型：対象による分類 性暴力に関する認識の虚と実
		性暴力の社会的原因及び対策	<ul style="list-style-type: none"> 性暴力の原因 性脚本（sexual scripts）と性暴力 性役割と男性の攻撃性 性暴力被害者に対する支援 性暴力被害後の対処方案
		マスメディアと性	<ul style="list-style-type: none"> 性の商品化とポルノ 芸術 vs 猥褻 ポルノ映画のいろいろな面 青少年のポルノ利用実態 ポルノの影響
		青少年売買春及び援助交際	<ul style="list-style-type: none"> 青少年売買春の定義 青少年売買春の実態 最近の青少年売買春の特徴 青少年売買春の原因 援助交際
	性差及び性役割	性差	<ul style="list-style-type: none"> 性差 認知的能力の性差 社会的行動の性差 性差の原因
		性役割及び性役割の実体感	<ul style="list-style-type: none"> 性役割と性役割実体感の意味 性役割及び性役割の固定観念 性役割実体感の発達
		性役割の社会化	<ul style="list-style-type: none"> 性役割の社会化 家庭における性役割の社会化 学校における性役割 マスメディアを通じた性役割の社会化
	両性平等的社会	性定型化の影響	<ul style="list-style-type: none"> 性定型化の影響 性定型化の被害：女性 性定型化の被害：男性
両性平等的社会文化形成		<ul style="list-style-type: none"> 両性平等的社会, 両性平等的教育 心理的両性性理論 	

「身体心理発達領域」は、初等・中学校のプログラムと同じく、青少年の身体的・心理的变化と発達並びに性健康に関する内容を中心に構成されている。身体的発達においては、男女の身体の構造と変化、生殖器の衛生、男女ホルモンの役割と第二性徴の発現、妊娠と出産、人工妊娠中絶に加えて避妊について学び、性心理発達では、性欲求と性反応、性衝動と自慰行為についても学習する。性健康では、性病、エイズ、異常性行動に関する内容が含まれている。

「人間関係理解領域」では、中学校でのプログラムと同様に、青少年が異性交際や異性交際を通じた性行動、さらには結婚を決定するにあたって後悔することのない選択をする助けになるような事項を学習し、家族関係、友人と異性関係等に対して正確で正しい理解ができるよう、また、自分の意思を表現するだけでなく、合理的な意思決定能力を養えるように内容が設定されているが、中学校とは異なり、異性愛についての内容がより多く含まれ、婚前純潔や婚前妊娠の問題、家庭における子女養育についても学ぶ。

「性文化及び性倫理領域」では、下位領域として「性差及び性役割」が新たに設けられているほか、性暴力や青少年の売買春と援助交際といった主題について、より多くの内容を学ぶことになっている。

2 国による学校性教育推進

教育人的資源部では女性教育政策担当官室が学校性教育の担当部署となっていて、学校性教育の活性化を推進している。学校性教育推進指針のひとつとして、性教育年間計画による計画的で体系的な性教育を実施するために、全国の初・中・高等学校に対して、学年度が始まる前に性教育の年間計画を立て、それを学校教育課程運用計画書（学校教育計画書）に入れるよう指導が行なわれている。また、各学校で1名指定することになっている性教育担当教師には、性教育計画の立案及び実施等、性教育全般にかかわる業務を担当させ、それを業務分掌表に必ず明示するよう指導している。

さらに、性教育の教授・学習方法の改善、性教育指針書の活用方案、正しい性価値観の涵養、性教育資料活用方案に関する研究・示範学校（モデル推進校）を指定することによって、現場での性教育の活性化を図っている。2002年・2003年の性教育研究・指定校数は表4に示す通りである。

表4 性教育研究学校・示範学校

	2002			2003			総計 (A+B)
	市・道指定	その他指定	計(A)	市・道指定	その他指定	計(B)	
初	1	0	1	3	4	7	8
中	9	1	10	10	2	12	22
高	7	0	7	8	0	8	15
計	17	1	18	21	6	27	45

(教育人的資源部 2004a)

性教育担当教師の専門性を高め、体系的な性教育を行なう基盤を作るために、教材活用方法、性教育方法等についての研修やセミナーも主催している。さらに、性教育担当教師が性教育関連の教授・学術資料を共有したり最新情報を交換したりすることを目的とする性教育教師用のホームページ（www.edugender.or.kr）を運営している。

また、性教育の実施状況を調べるため、市（特別市・広域市）・道教育庁並びに各地域の教育庁、初・中・高等学校、大学を対象に総合点検を実施している。点検内容は性教育並びに性戯弄・性暴力予防教育指導指針の履行状況で、優秀機関や優秀指導教師に対しては表彰を行なうなどして、学校性教育の推進を図っている。

3 地方自治体における学校性教育推進

教育人的資源部女性教育政策担当官室は、市（特別市・広域市）・道教育庁推進事業として「学校性教育及び性戯弄予防体系強化事業」の推進を要請している（慶尚南道教育庁 2004: 107）。推進内容は、「学校性教育推進指針の樹立及び性教育指導・支援」と「教育（行政）機関の性戯弄・性暴力予防計画の樹立及び教育実施」であり、前者の事項として「各種教員研修時、性戯弄予防教育関連講座の開設を勧奨」「性教育担当教師の専門性を伸ばすための職務研修課程の運用」「性戯弄予防に関連する校長・教頭及び担当教師研修」「性教育及び性戯弄予防関連の研究・示範学校の運営を勧奨」が挙げられている。

この指針にしたがって市（特別市・広域市）・道の教育庁も、性教育担当教師を対象とする性教育／性戯弄・性暴力予防教育の研修を行ったり、その地域の性教育研究学校・示範学校を指定するなどの業務を通して性教育を推進している。

性教育教科書あるいは性教育教材を作成している教育庁もある。ソウル特別市教育庁は1998年に『性と幸福』（ソウル特別市教育庁 1998）という性教育教科書を、慶尚南道教育庁は2003年に裁量活動時間用の性教育教科書『美しい私たち』（慶尚南道教育庁 2003）を発刊した。また忠清北道教育庁は2004年に性教育教材を作成している。

市（特別市・広域市）・道の下位行政区分となっている市・郡・区の教育庁も性教育指導案を開発する、性教育／両性平等教育の研究学校・示範学校を指定するといった業務を通して性教育を推進しているが、その度合いは地域によって格差があり、性教育指導案開発に積極的なところもあれば、学校の自主性に任せて特にそのようなことはしないということもある。

各教育庁には、通常、性教育ないし両性平等教育にかかわる業務を受け持つ担当官がいるが、性教育／両性平等教育に関する業務のみを担当するわけではなく、他の業務との兼担になっている。性教育担当官が置かれている部署は、各教育庁によって異なるが、初等教育、中等教育、学校保健教育、体育教育、生活指導を担当する部署などに置かれることが多いようである。

Ⅲ 韓国の学校性教育の実施状況

前節では韓国学校教育の制度的な側面を中心にみてきたが、この節では韓国の学校性教育の実施状況を、1) 性教育年間計画作成、2) 性教育実施時間、3) 性教育担当教師、4) 教科書・教材、5) 性教育担当教師研修、6) 性教育関連予算、の6項目に分けてみていく。

1 性教育年間計画作成

前述のように、教育人的資源部は、教育庁を通して、全国の初・中・高等学校に対して、学年度が始まる前に性教育の年間計画を作成し、それを学校教育課程運用計画書（学校教育計画書）に入れるように指導している。性教育年間計画作成の2003年度の実施状況は表5にあるように、99.0%と高い達成率を示している。特にソウル・光州・京畿・江原・忠清北道・済州教育庁の管轄地域は100%の達成率である（教育人的資源部 2004a）。

表5 性教育年間計画作成実態（2003年度）

	作成（教育計画書に包含）	未作成	計
学校数	10301 (6,416)	104	10,405
百分率	99.0% (61.7%)	1.0%	100.0%

（教育人的資源部 2004a）

2 性教育実施時間

初・中・高等学校の各学年で、年間10時間程度の性教育（うち1～2時間は性戯弄予防教育）を実施するよう指導が行なわれている。2003年度の平均実施時間数は9.0時間（初等学校－8.2時間，中学校－9.8時間，高等学校－8.9時間）であるが、これは前年度の平均実施時間数8.2時間に比べて0.8時間増となっている。市・道教育庁別の平均実施時間数は表6に示した通りである（教育人的資源部 2004a）。

表6 市・道教育庁別性教育実施時間数の実態（2003年）

区分	ソウル	忠北	済州	仁川	釜山	慶北	江原	蔚山	京畿	全南	大田	忠南	光州	慶南	大邱
時数	14.5	10.5	10.4	10.2	9.8	9.6	9.5	9.1	8.5	7.9	7.6	7.1	7.0	6.9	5.7

（教育人的資源部 2004a）

現場の性教育担当教師の悩みとして、実施時間数の確保の問題はかなり深刻なようである（慶尚南道教育庁 2004: 68）。特に入試を控えた学生がいる現場では、性教育を実施する時間が不足するという声があがっている（教育人的資源部 2004b: 46）。

性教育をどのような時間を実施するかは、学校の実情に合わせて各学校の裁量で決められることになっている。表7からわかるように。関連教科時間（道徳・生物・社会・体育・家庭科等）、裁量活動時間、あるいはこの2つを組み合わせる性教育を実施した学校が、全体の90%以上を占めている。

表7 性教育を実施した時間（2003年度）

	関連教科	裁量活動	特別活動	裁量+教科	その他	なし	計
学校数	3,262	2,181	247	3,989	709	17	10,405
百分率	31.3%	21.0%	2.4%	38.3%	6.8%	0.2%	100.0%

（教育人的資源部 2004a）

学校現場で性教育を担当している教員は、関連教科を利用して性教育を実施する長所として時間数が確保できることを、短所として（1）断片的な知識中心の教育になるおそれがあり、連携的な性教育が困難なこと、（2）一回ごとに終わる性教育のため、学生の好奇心だけが刺激され、その結果、逆機能的問題が発生する恐れがあること、（3）社会文化的側面に性教育を適用する上で困難があること、を挙げている。また裁量活動時間に性教育を実施する長所は、（1）単位時間の運営が固定されないため、活動内容によって増減して運営することができること、（2）体系的で連携性のある性教育を計画することができ、学生の好奇心の充足、社会の性の問題に対する批判、問題解決力の養成、健全な性価値観形成が可能になることであると述べている。短所としては、（1）裁量活動は学習者と地域社会の要求、学校の状況、学校長と教師の教育観によってその学校の特色が出るように展開できる教育活動であるため、性教育のための時間確保に固執することができないこと、（2）大規模な学校の場合、性教育を担当する教師が全学年に実施するのが困難なこと、が挙げられている（慶尚南道教育庁 2004: 48-49）。

このように双方に長短があるため、関連教科と裁量時間を組み合わせる性教育を行っている学校が多いのではないかと推察される。

3 性教育担当教師

教育人的資源部は、全ての学校に性教育計画を作成し、性教育全般にわたる業務を担当する教師を1名指定するよう指導している。この性教育担当教師もそれぞれの学校の実情に合わせて指定すればよいことになっていて、誰が担当するかは各学校の裁量に任されているが、実際には保健教師が担当している学校が最も多い（表8）。

表8 性教育担当教師（2003年）

	担当教員がない	保健	体育/教練	家庭科	初等	その他	計
学校数	237	6,706	698	577	976	1,211	10,405
百分率	2.3%	64.5%	6.7%	5.5%	9.4%	11.6%	100.0%

（教育人的資源部 2004a）

性教育担当教師の指定が100%達成されているのは光州・大田・京畿・江原・忠清北道・済州教育庁の管轄地域である（教育人的資源部 2004a）。

指定された性教育担当教師は、性教育計画作成のほか、学生に対する講義、教材の作成、外部講師の招請、性相談室の運営、性教育ホームページ運営等、多くの業務を担うことになる。さらに自己研鑽のため研修会や研究会へ参加することも必要となってくる。

実際のところ、聞き取り調査においても、学校の性教育の実施は担当教員に左右されることが多いという声がたびたび聞かれた。性教育担当教員が熱心な場合は充実した性教育が実施されるが、そうでない場合は形式的なものになる傾向があるという。

4 教科書・教材

教育人的資源部が作成・配布した『いっしょに解いていく性のはなし』は、性教育に関する適切な基準がなかった韓国の学校性教育に方向性と具体的な適用方を提示したものと現場の教師からも評価されているが（慶尚南道教育庁 2004: 47）、全国の市・道の48の初・中・高等学校を対象にした調査では、この性教育プログラムを実施していない学校が全体の約40%あった（表9）。

表9 教育人的資源部による性教育プログラムの実施状況 N (%)

	初	中	高	全体
実施している	13 (86.68)	8 (57.14)	8 (42.11)	29 (60.42)
実施していない	2 (13.33)	6 (42.86)	11 (57.89)	19 (39.58)

(教育人的資源部 2004b: 45)

実施率には教育段階によってバラつきがあり、初等学校では86.68%と高いが、中学校、高校と進むにつれ実施していない学校が増えている。現場の教師からは、実施していない理由として、インターネットや保健所にある資料に比べて内容が不十分である、理論的・慣習的すぎて学生たちの新しい関心と興味を引き出せない、といったことがあげられている（教育人的資源部 2004b: 46）。『いっしょに解いていく性のはなし』を使用していない教師は、これまで使っていた教材をそのまま使用したり、インターネット等を利用するなどして自分で教材を作成しているようである。

5 性教育担当教師研修

性教育担当教師の専門性を高めるために実施されている研修の実施状況が表10に示されている。教育人的資源部は30時間以上のより進んだ課程並びに専門課程を拡大する意向である（教育人的資源部 2004a）。

例えば慶尚南道教育庁では、毎年、初・中・高等学校の性教育担当教師対象とする研修を行なっているほか、高校生を対象とする「仲間性教育」¹⁰⁾研修や、幼稚園並びに初・

中・高等学校の校長・教頭を対象とする「管理者のための性戯弄予防教育」研修も行なっている。

表10 性教育担当教師研修実施数（2003年）

	60時間	30時間	10時間	計
初	9	3	6	18
中	10	5	6	21
高	6	4	3	13
計	25	12	15	52

（教育人的資源部 2004a）

6 性教育関連予算

教育人的資源部は、性教育に関連する予算を確保するため、会計年度が始まる前の学校予算編成に性教育のための予算（資料製作・購入費、学生参加行事経費、教員・学父母研修経費等）を含めるよう指導している。表11は性教育予算の現況である。初・中・高等学校のいずれの段階においても性教育予算の増加がみられるが、特に初等学校では前年比で約1.7倍となっている。

表11 性教育予算の概況（単位：千ウォン）

	初	中	高	計	予算/校
2002	541,368	421,199	192,901	1,155,468	111
2003	904,894	565,951	280,409	1,751,253	168

（教育人的資源部 2004a）

IV 学校性教育の問題点

各学校段階における実際の性教育実施状況を見ると、2003年度の性教育平均実施時間が9.0時間、性教育担当教師指定の達成率が97.7%、性教育年間計画作成の達成率が99.0%という、高い達成率を示している。また、教育人的資源部が作成・配布した教師用性教育指導指針書は、それまでの学校性教育に欠けていた性教育の方向性と具体的な適用方案を示したものとして現場の教師からもある程度の評価を得ていることは既に紹介した。

にもかかわらず、2004・2005年の年末年始にかけて行った現地調査では、学校性教育関係者から、韓国の学校性教育はまだ問題が多いという意見が聞かれた。また、2006年に朝鮮日報がソウル市の中・高校生を対象にして行ったアンケート調査では回答者の77.1%が「学校の性教育は全くためにならない」と答えている¹¹⁾。韓国の学校性教育の何が問題でこのような結果が出てくるのだろうか。

以下、韓国の学校性教育の問題点を実施方法の問題と内容の問題の2つに分けて検討する。

1 実施方法に関する問題

まず、実施方法の問題点として、性教育実施時間がどのように確保されているかという点があげられる。確かに時間的には初・中・高等学校の各学年の平均実施時間は9時間となっているが、性教育は正規科目ではないため、関連教科（道徳・生物・社会・体育・家庭科等）や裁量活動時間、あるいはこの2つを組み合わせる実施の場合がほとんどである。そのため、連携的な性教育が行いにくく、一回ごとに終わる断片的な知識中心の教育になりがちである。また、要請されている各学年年間10時間程度の性教育実施時間の中には性戯弄・性暴力・性売買予防教育も含まれているため、性知識の教授に充てられる時間はそれほど多くあるわけではない。また韓国では受験戦争が苛烈であるため、教育現場で入試とは関係のない性教育を実施する時間を確保するのはかなり困難である。

教育現場での性教育の実施が、各学校で1名指定される性教育担当教師の熱意や資質に左右されることが多いことも問題点のひとつである。専担の性教育担当教師がいない現在、性教育担当教師の指定は各学校の裁量に任されているが、保健教師が担当している場合が最も多い。その他、体育や家庭科の教師が担当することがあるが、いずれの場合も、通常の専担業務に加えて、性教育計画作成・学生に対する講義・教材作成・外部講師の招請・性相談室の運営・性教育ホームページの運営といった多くの性教育関連業務を担うことになり、担当教師に強い熱意がないと単に形式を満たすだけのものになってしまう。この問題について言及した教育人的資源部の性教育担当官は「できれば性教育の専門家を性教育担当教師として各学校に1名ずつ配置することが望ましいのだが、予算の関係もあり、実現は困難である」と述べていた。

学校によって性教育の充実度に格差が生じてしまうのは、性教育の実施にあたって、教育人的資源部は指針を示すに留め、実際の運用は現場の裁量に任せるという現在の制度に起因する。しかし、だからといって政府が各学校の異なる状況を見捨て、細部の運用に至るまで上意下達で性教育を実施させるというのも望ましいとは言えず、簡単には解決できない問題である。

2 内容に関する問題

以上見てきたように、性教育の実施方法に関しても問題はあるが、さらに問題とされるのは学校で実施される性教育の内容である。

ソウル市にあるアハ青少年性文化センターの所長は、筆者が2004年に行なった聞き取り調査の際に、「学校性教育の必要性はみな感じているが、問題は性教育の内容を

どうするかということであり、その点に関してはあまり進展がない」と語っていた。教育人的資源部が性教育プログラムの一環として作成した教師用性教育指導資料・指針書は、学校性教育の目的や方向性が明示されているということで現場の教師からもある程度の評価が得られているが、内容に関しては、視聴覚資料が少ない、内容が不十分である、理論的すぎて学生たちの新しい関心や興味を引き出せないといった問題点が現場の教師から指摘されている（教育人的資源部 2004a: 46）¹²⁾。実際に学校で使用されている割合も60%程度にとどまっていた、しかも中学校、高校と教育段階が進むに連れて使用率が下がるという結果が出た。

インターネットや映画、文学作品など青少年が日常接するメディアにおける性描写がより直接的なものとなり、こうしたメディアから得る青少年の性知識が増大するなかで、青少年の性に関する知識や観念の変化に学校性教育の内容が対応できていないということが、韓国の学校性教育の大きな問題である。前述の朝鮮日報のアンケート調査を取り上げた記事の中でも、学校の性教育では「セックスをすれば妊娠するという脅迫的な結論を教えるだけなので、あくびが出る」という中学3年生の女子学生のコメントが紹介されている。

V 結び

韓国において、青少年に性教育を行うことの必要性については既に社会的理解が得られていると見てよい。2006年4月にソウル近郊果川の遊園地内に青少年性教育館が設置されたことも、こうした社会の性に対する意識の変化を反映している。

しかし、インターネットなどを通して容易に性に関する知識や情報を入手できる青少年に対して、学校で性について「何を」「どこまで」教えるかということについては、まだ問題含みである。教育人的資源部が示した学校性教育の指針（性教育実施時間・性教育年間計画作成・性教育担当教員指定等）の達成度は数値の上では非常に高いが、この数値が示しているのは形式的要件の達成度に過ぎず、学校性教育が実際にどれだけの成果を上げているかということを示すものではない。性教育の充実度において学校間の格差が大きい現状では、学校性教育の成果を総合的に把握するのは困難であるが、実施されている性教育の内容についても調査し、検討する必要があるだろう。

注

- 1) 本稿は『日本・韓国・タイにおける学校性教育の調査及び文献研究の予備的調査報告』（お茶の水女子大学21世紀COEプログラム「ジェンダー研究のフロンティア」Publication Series 6, 2005）に掲載された拙稿「韓国の学校性教育に関する報告書」を改稿し、分析を加筆したもの

- である。
- 2) 初等学校は日本の小学校に該当する。
 - 3) 調査当時の名称。日本の文部科学省に相当する政府機関である。1990年12月に文教部から教育部に、2001年1月に教育人的資源部に名称変更し、2008年2月に科学技術部と統合して教育科学技術部になった。
 - 4) 2005年6月に「女性家族部」に改編されたが、2008年2月に改編されて再び「女性部」になった。
 - 5) 調査当時の名称。2008年に「保健福祉家族部」に改編された。
 - 6) 調査当時の名称。2007年5月に「韓国女性政策研究院」に名称変更した。
 - 7) 調査当時の名称。2006年6月に「人口保健福祉協会」に名称変更した。
 - 8) 1983年から青少年の性教育相談を行なってきたソウルYMCAがソウル市から支援を受けて2001年に設立した青少年の性教育・性相談専門機関である。
 - 9) これらの指導書の概要はインターネットのWebページ上で公開されている(www.edugender.or.kr)。
 - 10) 「仲間性教育」とは、級友など同じ年頃の仲間の中で特に訓練を受けた者が他の仲間に教育を行なうピア・エデュケーション(peer education)のメソッドを性教育に適用したもので、性教育関連の機関で同様の研修が多く実施されている。
 - 11) 朝鮮日報2006年5月1日記事。
 - 12) 中学校用の教師用性教育指導指針書に関する問題点は拙稿(仲川 2006)で指摘した。

文献

仲川裕里

- 2005 「韓国の学校性教育に関する報告書」『日本・韓国・タイにおける学校性教育の調査及び文献研究の予備的調査報告』(お茶の水女子大学21世紀COEプログラム「ジェンダー研究のフロンティア」Publication Series 14), pp. 44-63。
- 2006 「韓国の教師用性教育資料・指導指針書に関する報告——中学校の事例——」『性と生殖・国家の政策』(お茶の水女子大学21世紀COEプログラム「ジェンダー研究のフロンティア」Publication Series 6), pp. 25-58。
- 慶尚南道教育庁(경상남도교육청)
- 2003 『美しい私たち』(『아름다운 우리』)。
- 2004 『学生性教育研修資料(初・中・高)2004.5.』(『학생성교육 연수자료(초·중·고)2004.5.』)。
- 教育人的資源部(교육인적자원부)
- 2001a 『いっしょに解いていく性のはなし』教師用性教育指針書。(『함께 풀어가는 성 이야기』교사용성교육지침서)
- 2001b 『性戯弄・性暴力予防プログラム』(『성희롱・성폭력예방 프로그램』)。
- 2004a 「2003 性教育実施状況に基づく2004 性教育活性化推進指針」(『2003 성교육 실시 현황에 따른 2004 성교육 활성화 추진 지침』)。
- 2004b 「性教育プログラムの効果分析及び改善方案研究」女性教育政策研究課題報告書2004-03(『성교육 프로그램의 효과분석 및 개선방안 연구』여성교육정책연구과제보고서 2004-03)。

ソウル特別市教育庁 (서울특별시교육청)

1998 『性と幸福』ソウル：大韓教科書株式会社 (『성과 행복』서울：대한교과서주식회사)。

朝鮮日報 (조선일보)

2006年5月1日記事「学校性教育? あくびが出るわ」(「학교 성교육? 하품 나와요」)。